

・・・雨でも休まず、178回・179回・・・

## 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：小原本陣の森：11月 5日：第一土曜日、参加費300円  
弁当持参 9時15分、JR相模湖駅。車分乗で行く。
- ・定例活動2：特別活動：森をもっと知ろう／若柳嵐山の森・オリエンテーリング。  
11月20日：第三日曜日、詳細は文中4ページ
- ・特別企画：本陣まつり：11月 3日：文化の日、参加費なし  
JR高尾駅：10時集合、峠越えをして小原町の本陣祭に参加  
甲州古道復活：11月26日：第四土曜日、参加費なし。弁当持参、  
JR笛子駅：10時
- ・服 裝：汚れても良い格好、着替え、滑らない足元。
- ・持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて・・・保険証。  
そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしない心構え」

神奈川県水源環境保全税

・・事業修正し成立・・

2001年に本格的論議をはじめて、2003年に「県民集会」を開きその内容を県内各地で広く情報公開した。

その情報公開の場で緑のダム仲間は、「また、緑のダムか」といわれるほど、各地に出没して森林の現場から提案した。その後、県は「出前懇談会」と銘打って県民から要望があれば相手先に出かけて話し合った。新聞は、開かれた県政の情報公開度を全国3位と報じた。

岡崎前知事から松沢現知事に引き継いだ神奈川県の「水源環境の保全・再生政策」がなぜ、重要かというと、猛烈な勢いで進む森林の荒廃と減少に待ったをかける、

全国で初めての大きな規模と施策内容が盛り込まれているからだ。

この政策「かながわ発、水源環境の保全・再生」を効果的に生かせば、本格的な森林保護を全国に、世界に発信できる。

都会部の人々の森林の実態の知らなさは殆ど呆れるほどである。政策が執行されるに当たり、森林NPO：当会の役割は何かというと「森林と都市をつなぐ県民参加の森つくり」と思う。

森林の大切さと意義、楽しさ、美しさ、そして森の真実を一人でも多くの人々に知らせたい。

## 活動報告：小原本陣の森、作業道つくり

10月1日、秋日和の快晴、15人が集まった。先ず、全員で測量地点の確認と緊急間伐地区の木にマーキングした。

お昼頃、所有者の石井 晃さんが夜勤明けのその足で森に来てくれた。

午後は、間伐現場への作業道つくりに取り組んだ。取り付き部分が急斜面で難工事になったがなんとか目途が付きそう。倒木作業でヒヤリ・ハットがあった。

ヒヤリ・ハット：大事故に繋がりかねない事柄。

ここでは仲間のいる直近に倒木が倒れかかった。

終わりのミーティングで決めたこと：林道に入る車両は、道具運搬車(軽トラ)と緊急連絡車(園田四駆)の2台とする。林道を傷めないために。

そして、小林宏中さんが、ご自分の森の整備をするのだと言って境界線確認のため藪に潜り込んだ。この人の参加で小原本陣の森は、6ヶ所で整備が始まった。プロの佐藤好延さんが林道突き当たり左手：鈴木忠治さんの見事な森つくりを絶賛した。

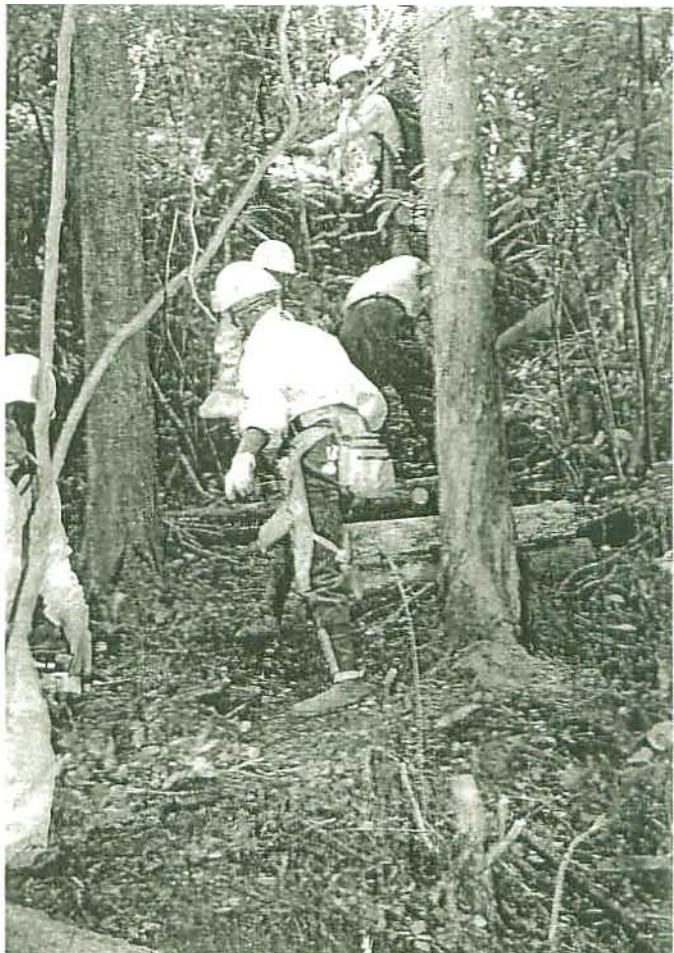
## 活動報告：若柳嵐山の森、里山交流

10月16日、前夜半から雨、当日の天気は予報とおり。

速水仲間、その他の仲間も早く来てくれて雨よけシートを張る。「雨でも休まず」が完全に身について、このシート張りの阿吽の呼吸の手順も良く、この作業がまた楽しいんだな～。そうこうしている内にこの雨の中、初参加：NPO藤野シュタイナー学園高校、東海大望星高校、武藏工大環境情報学部、東急コミュニティなど団体参加を加えて雨の中、何と71人。

本日の特別活動メニューは、加藤森林インストラクター、篠田FSC推進リーダー、植物図鑑発行の林将之を講師に迎えて「第18回：秋季・緑のダム体験学校：齊藤校長」開催。森林整備は、福蔵寺跡の森の軟斜面林床整理。林内に時折、響くチェンソーの音が頬もしい。

「雨天中止」が森林ボランティア活動の普通の考え方なのだが、ここではそれが全くに脳中にはない。活動最中もそれを完全に忘れている。但し、初参加者だけには危険意識を叩き込んでおく事にしている。そこで、体験学校、初参加のシュタイナー学園高校の登山最後尾に付く。



取り付き箇所は急斜面で難工事になった。



第18回：秋季・緑のダム体験学校

んで、朝飯を食ってこなかったという子が途中でバテテ、リタイヤーに付き添って下山。

篠田さんが体験学校の森から持ち帰った生物のサンプルの中に「クガ蛭：ヒル」という17～18センチもあるかと思う巨大蛭がいて、そのヒルを入れたBOXと同じ位の大きさの巨大みみづを入れたら、「クガヒル」がたちまの内に「大みみづ」を丸呑みしてしまった。クガ蛭は、パンパンに膨れて倍の大きさにな

ったのだが、高校生たちがその光景を息を呑んで見ていた。「自然のすさまじさ」にいろんなことを感じただろう。今月も有意義に楽しく終了した。

## NPO藤野シュタイナー学園高校、

昨年12月、ある会合で知り合ってそこで「この小さな空間に宇宙がある」と変なことを言うから「森がすべてを教えてくれる」と応酬したら気が合って交流することになった。

学園は、来年4月に子供たちと一緒に校舎を建てるが、森の勉強をしたいと「緑のダム体験学校」に参加することになった。それに先立ち1時間半ばかり藤野駅前仮校舎で森を話した。生徒全員から感想文を送ってきたが「川上 純君」の感想文を原文のまま紹介する。

### 「緑のダム体験学校の感想」

10年生 川上 純

私たちの校舎を作るために、協力を申し出てくれた人々がいる。それを聞いてとても嬉しく思った。社会的に学校としてまだまだ小さい私たちの学校に、暖かい手が差し伸べられたのだ。

この人々は「NPO法人緑のダム」だと先生が教えてくれた。ア、何だ、私たちと同じだ。教室に来られた石村さんは、まるでミツバチみたいに明るく朗らかな方のように見受けられた。ご自分が森に関わったきっかけや、沢山の大変な作業の話を、まるでとるに足りないことのように語られる。森の異変に気付かない人々が沢山いるこの時代に「NPO緑のダム」の方々が熱心に森林活動をしている。

石村さんのお話に夢うつつのように引き込まれて伺った緑のダムの森の現場は、作業に集中する方々の静かな熱に満ちていた。小雨の降る中で登った途中で見たリスや、驚いて巣から飛び出してきたムササビ、押すと種が出る花、臭いので「くさぎ」と名づけられた木。

初めて見るもの、聞く音、考えさせられる話。数字の連発に難しいところもあったが、素晴らしい森林体験をさせていただきました。有難うございました。

予告：来月 11月 20日／「嵐山・森のお祭り」をやろう。

園田安男

～ F S C 森林認証記念、森のお祭計画 ～

緑のダム北相模がフィールドとして来た嵐山が、多くの人たちのご協力でF S C 認証森林になりました。一つの区切りとして、これまで関わったことのある人たち、協力してくれた人たちとの一層のつながりを強め、地域の人たちへの交流と紹介を兼ねて「嵐山、森のお祭り」をやりましょう。

地元、相模湖町奥畠地区との準備を重ねていきたいので、本番は来年の春です。それまでに、いくつか私たちも練習が必要です。11月の定例活動日は、嵐山を知り、紹介し、交流して、楽しむ「嵐山、森のお祭り」のイベントとして、みんなが参加して、みんなで工夫してやって見ることにしました。定例の活動とはちょっと違った一日になりますが、楽しくやってみましょう。

日時：11月定例活動日（11月20日）

内容：1)、「嵐山オリエンテーリング」 嵐山と嵐山での活動を知ろう。

嵐山のフィールドをゲーム感覚で紹介し体験する「嵐山オリエンテーリング」。

嵐山を一周するコースつくり途中で木を伐ったり材木を引き出したりの作業を組み込む。また指定した樹木の葉を集めてくるなど、「嵐山を知る」というプログラム。取り合えずやってみます。

2)、森の屋台村～森の仲間がおいしさを提供します～

嵐山に参加している多くの仲間がいろんな屋台をだします。

焼き芋、焼きそば、バームクーヘン、ダッチオーブン料理など、いろいろ。何が出てくるか当日でないとわかりません。当日のお楽しみです。

3)、森の工作教室～森仲間が山の材料でツルカゴづくりなどのいろんな工作を教えます。

参加費：1000円

その他の報告1：

やまなみ五湖キャンペーン：

9月23日～24日

県企画部：土地水資源対策課主催のこのキャンペーンは、水源地域を広報する恒例行事。当会は大型テント2張りを借りて「木を使うこと、森を守ること」をテーマに8団体で参加了。23日快晴、24日台風の来る雨でもやり遂げた。当会関係8団体の参加2日間延べ38人。



陳列・レイアウトもなれて2日間で約20万円の売上げ。

上 流：北都留森林組合  
中 流；緑のダム北相模、伊勢原森林里山研究所、  
都市部：緑のダム北鎌倉、 川崎：幸まちつくり研究会、  
そして：大工棟梁・SHS 友の会、神奈川県建具組合、住工房なお

夫々、電話・FAX 程度の連絡でも互いの信頼と初めてテーマを明らかにしての協働、ただのイベントに終わらせない仕組みつくりに取り組んだ。

その他の報告 2：甲州古道：

報告 斎藤憲弘、石村黄仁

9月24日：台風の近づく雨、上野原の井田史朗さん等、7名は藤野町の「芸術の家」で古道マップの編集準備会を行いました。佐藤 純さんの提案はつづら折絵図面タイプで各地区のマップそのままつなげることができ、順次解説を入れていこうというものです。

主に古道沿道にお住まいの方へ 無料配布して地もとの歴史文化の発掘に 協力してもらえると・・・さらに次への展開が期待できるのではと思います。地区ごとの普及から始めて、噂の広がったところで、小仏から笛子までを冊子にして、出版まで進めたいですね。

10月19日、「大月・森つくりの会」  
河西さんが国土交通省大月事務所、JR大月駅長に渡りを付けてくれて斎藤さんと連れ立って訪問した。更に河西さんは「大月・甲州古道の会」の会長に渡辺さん、副会長に岩田さんを仕立ててつれてきた。河西さん、やるじゃないか。



国交省大月事務所

10月22日、定例活動日：上野原、

マップをいよいよ仕上げる時期に来たので佐藤 純さんが原稿を持ってきた。このプロジェクトの構成員全員が熱意と知恵と実践優先で、西村さんは絵本作家の大御所、佐藤さんは一流デザイナー、井田さんは3回も古道を歩き往復した剛の者で、事務長としての斎藤さんは妥協を許さない仕事が得意。が、そこはみんな大人。互いを認め合いつつ素晴らしいマップが具現化しつつある。一刷目は、街道筋の家々に配ろう。古道活動を街道筋の皆さんに広報とご理解を求めよう。



JR 大月駅長にもご協力を頂く。

マップに盛り込む情報の正確性を積み上げようということを駅待合室立ち会議で採択した。会議室でエンエンと議論することはゴメンだ。三鷹の「甲州道中研究会」の矢崎さんが30人ばかりを連れて合流した。

### 10月23日、「小仏峠～底沢林道まで補修調査」

プロのサトウ草木の佐藤好延さんと齊藤さんと連れ立って補修箇所の調査をした。津久井地域県政総合センターの委託による。

此処は「陣馬・相模湖県立公園」なのだが調査の視点で見れば歴代の大名、松尾芭蕉、安藤広重、大熊重信、明治天皇、近藤勇らが往来した大都市に隣接した歴史の重要な拠点が、鉄釘が飛び出している、路肩は崩れている、倒木は途をふさいでいる、暗く寂しい不気味な針葉樹林、こんなでよいのだろうかと思う。骨折など時折、救急隊が担架で駆けつけるという。先だっても落石での大怪我にヘリコプターで搬送したことだ。

その他の報告3：CoC（Chain of Custody：FSC材の流通管理）審査：9月26日

10時に鎌倉駅で北林審査員、FSC推進チーム篠田さんと落ち合い午後5時までFSC材が他の材と混じらない体制づくりを含めてどのように組むか、FSC認証森林になった後、若柳嵐山の木をどのように生かし流通させるかが審査の対象となった。



COC 審査風景；兼松邸

森林現場での材の在庫管理は8月の本審査で確認したが、製品にしている兼松さん、清水さん、酒井さんのお宅に訪問して兼松人形など、製品のCoC審査を北林審査員の手でチェックを受けた。「CoC体制は適正」と北林審査員からFSC本部に認証の推薦を受けた。これが確実に実行されているかどうか、認証6ヶ月後に再チェックを受ける。

### 新しい活動：森を生かす天才たち

「森の喫茶：ムササビ亭」を繁盛させているお花畑造園班が、またまた実に愉快なことを始めた。即ち、「実のなる樹木オーナー制度」。ドコモ鉄塔真裏の未開地に園路をつくりつつ、そこをチョット他所では見れない果樹園を作ろうという計画。以下、その天才の公募案内は・・・

「造園班は貧乏ですから皆さんがご自分で購入した果樹を植えてあげますというお誘いです。もちろん、収穫はオーナーのもの。何時の日になるか分りませんが、いいお土産になるかも知れませんよ。果樹名とオーナーさんの名札は造園班で用意します。例えば、夫婦結婚記念、何とか還暦記念、＊＊初参加の思い出・・・など、勝手に決めてください。但し、山主さんのご好意で使用出来るまで」。・・・んで、早速、応募がありました。未だの仲間はお早めに。

- 1、白石清輝仲間：柿：西村早生を指定。ムササビ亭での酔い覚ましに。
- 2、林 将之仲間：さくらんぼ：佐藤錦、高砂
- 3、藤島 斎仲間：梨：青玉（セイギョク），実がシッカリしていて少し青臭みが堪らない。
- 4、仕掛け人・清水仲間は：梨：南水・・二十世紀梨を越えた名品。

・・・天才：お花畠造園は、キチンと品種を指定して、その実の特徴までする・・ノダ。

## 活動アンケート2、回答。

FSC本審査に際して提案されたご意見を公開して活動の見直しとして活用させていただいています。以下、漸次、検討を加え改善を進めますが、皆さんから反論、対案、提案、ご意見をお寄せ下さい。

### (全般的な会の活動に対する意見)

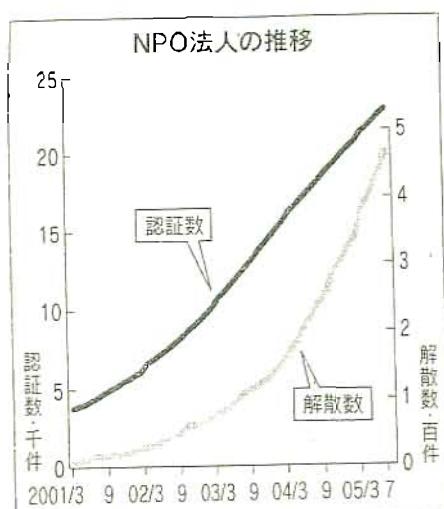
提案：補助金に頼らなくても運営できることを常に考え、話し合うべきではないか。「地に足を着けた活動をすること、補助金はその不足分を補う」、本来の趣旨を実現したい。（正会員）

回答：全く、その通りです。但し、話し合うまでもなく自分からドンドン進めてくれている人もいます。本年4月の総会で報告していますが、前期事業収入は398万円ありました。実に総収入の33.8%と驚くべき成果です。補助金は422万円、35.8%でした。

会費；3.8% 活動参加費；6.9% 寄付19.7% 総計9,415千円  
だが、何時もこのように行くとは考えられません。右の表は先月号の表紙面に掲載したものです。これによると大体、90%以上が資金難による解散です。

9月27日に「かながわ、ボランタリー基金21」の支援を受けている13団体が集まって意見交換をしました。課題は、殆どが資金の悩みで県の支援が切れたら活動を止めねばならないと心配していました。

NPO活動は「公のことを行政と市民と共にすること」といっても過言ではありません。NPOは行政の手の回らないところを埋め合わせています。治山治水は本来、国の仕事です。ですが、国を守ることは、私たち自身の問題でもあります。それを出来なくなつたから私たちが何とかして埋め合せ新しい仕組みがないかと取り組んでいるのです。



私の悩みの一番も資金つくりですが、当会の場合「地に足を着けた活動」とは何でしょう。貴方の言う「地に足を着けた活動」とは何かをお聞かせ下さい。これをテーマに一度、意見交換しましょう。

それを他に期待するのではなく、自らの手で具現化するのがNPO会員の真骨頂です。

## 木を使うこと、森を生かすこと、2

「えっ、材料費が2倍？、う～ん、どうしよう」。

神奈川県産材指定の見積り価格が、国産材の2倍。約2倍でなく2倍強なのです。県産材製材が高いとは聞いていましたがここまで高いのは正直、目を疑いました。  
施工様への見積りは、いつもの国産材価格で提出済みです。だが、県産材住宅を提案した手前もあり、挑戦したい気持ちも強く、このまま進めてみることにしました。それから悪戦苦闘です。

先ず、平面図・立面図・展開図・伏図で木材屋さんと打ち合せ、プレカット図の製図です。プレカットとは、工場で材料を刻んでもらうことです。本来なら大工さんの手刻みがいいのですが今回はプレカットにしました。プレカットに載っている材料は構造材です。神奈川県の認定では構造材の50%を県産材にすればいいのですが、この現場は100%の神奈川県産材の家にすることにしています。

プレカット図面で棟梁と打合せ、木拾い書を作ります。県産材にこだわっているので木材屋さんとも何度も打合せます。材料は杉・檜ですから当然、食い違いも出ます。それを木材やさんと棟梁との間で調整しながら何度も何度もやり取りをしました。その結果が2倍強の見積りです。

丸ごと一棟、100%の県産材住宅とはいきませんでしたが、納得のいくところまでこぎつけました。材料費を何とか2倍に納めてゴーサインを出しました。今は上棟式を迎えるばかりです。

以下は是非と薦められて読んだ本の抜粋です。

「一般的の取引では大量に注文したら値引きがあるのが普通です。ところが国産材を注文すると逆に、単価が上がるという摩訶不思議なことが起こります。木材は一本一本、取引するので量が増えても手間が掛かるだけで、スケールメリットがありません。木材量が少ないため各地から取り寄せねばならないのでコストも高く期日も掛かります。大量注文すると売り手市場になり、値引き圧力がなくなります」。

次回はなぜ、材料価格が2倍になったか。敢えてなぜ、それに取り組んだか。そして、何処で赤字を吸収するかを述べます。

文責：自然素材・古材ギャラリー住工房なお

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず。ボチボチと・・・。

そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称：さがみ湖・森つくりの会：NPO法人緑のダム北相模

事 務 局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodamu.jp>

E-mail : [moritomo@rk9.so.net.ne.jp](mailto:moritomo@rk9.so.net.ne.jp)

協働団体：神奈川県(企画部、津久井行政森林部),  セブン-イレブンみどりの基金  
ご支援団体：WWFジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川建具組合  
東急ミニティ